

# 国際食料情報学部

## 1. 教育研究上の目的

本学部は「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、持続可能な食料・農業システムと循環型社会の構築、食料の生産・加工・流通・支援サービスを担う農業・食品系ビジネスの展開及び日本が誇る食農文化の継承・発信や新たな食農文化の創造等の分野で活躍できる人材を養成する。

## 2. 教育目標

国際食料情報学部は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 主として熱帯地域の途上諸国への食料・農業開発のための国際協力を目指す者
- (2) 熱帯生物資源開発と保全のための、先端技術を活用した熱帯農学の研究と教育を実践できる者
- (3) 環境保全型世界の食料・農業経済システムと資源循環型社会の構築に取り組む者
- (4) 日本と世界の地域特性を活かした共生型農業・農村発展のための社会経済理論の構築と政策提言等に取り組む者
- (5) 国際的視野に立つ食料の生産・流通・加工ビジネスとその関連産業からなる新しいビジネス領域としての「バイオビジネス」の起業と経営に、IT技術を駆使して取り組む国際的感覚を有する者

## 3. ディプロマ・ポリシー

国際食料情報学部は、「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと、総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、新たなフードシステムの構築および持続的な循環型社会の構築、資源・環境保全と産業発展の共生を図る新しいバイオビジネスの展開および伝統的な食農文化の継承と創造により、地域社会や世界の発展等に貢献する人材を輩出するため、本学部の教育目標に基づいて設置した授業科目を履修して所定の単位を修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 自然科学・社会科学の両分野にわたる基礎的・基盤的知識の修得と同時に、各学科の目的とする専門的・先進的な知識や技術、コミュニケーション力などの能力を身につけている。
- (2) 卒業論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、知識の活用力、批判的・論理的思考力、問題解決力、数的処理、文章表現およびプレゼンテーション力などの能力を身につけ

ている。

- (3) 研究室における諸活動および国内外での体験的・実践的諸活動などに基づき、広い視野、異なる文化への理解や関心、他者への柔軟性、自らの意思を適切に表現できる表現力あるいは語学力を有し、地域であるいは海外で、現場と連携・協働し活動しうる能力を身につけている。
- (4) 「農業」、「食料」、「環境」分野における「国際協力」、「技術」、「ビジネス」、「マーケティング」、「文化」、「教育」、「政策」などに関わる専門性を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍しうる能力を身につけている。

#### 4. カリキュラム・ポリシー

国際食料情報学部は、本学の教育の理念「実学主義」に基づき、食料・農業分野における総合的な教育を根幹として、実践的な専門知識・技術を修得し、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- (1) 基礎的・基盤的知識の修得と食料・農業に係る実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当する。また、効果的な学修を行うため、ナンバリングやカリキュラムツリーを用いて学習の順序等を示すなど、各区分内において基礎から応用への段階的な科目配当を行う。
- (2) 「総合教育科目」には、「導入科目」、「スポーツ関係科目」、「課題別科目」および「就職準備科目」の区分を設け、大学での学修方法等を修得する科目や、専門教育の動機づけとなる授業科目を配当する。併せて、学修内容を将来の進路に繋げるための準備科目も配当する。
- (3) 「外国語科目」には、異文化理解および国際的視野を形成するための実践的な語学科目として、全学共通の「基盤英語科目」、「専門教育プログラム関係科目」以外に、「実用英語科目」、「初修外国語科目」を配当する。
- (4) 「専門教育科目」のうち、学部共通科目として「学部共通基礎科目」、「学部共通専門科目」の区分を設けて、食料・農業分野における総合的な教育の基礎となる科目を配当し、各学科の「学科専門科目」では、「専門基礎科目」、「専門コア科目」、「学際領域科目」および「総合化科目」の区分を設け、科学の進歩や社会の要請に応えうる新規性や先進性に富んだ授業科目を配当する。また、実学主義に基づく多くの実験・実習・演習科目と、アクティブラーニングやPBLの手法を取り入れた「研究室における諸活動」、「国内外および学内外の農業実習・研修・調査活動」、「企業・地域・社会連携先との交流活動」等を行う実践的な科目を配当する。「総合化科目」には、4年間の学修の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。

#### 5. アドミッション・ポリシー

国際食料情報学部は、人類共通の課題として提起された食料・農業・環境・エネルギー・経済成長・人口・情報などの諸問題を地球規模的視野で捉え、これらの問題解決のために取り組む人材を養成します。そのため、本学部では、次のような学生を求めています。

- (1) 食料・農業分野を総合的に学ぶにあたり、基礎的学力と必要な知識を有している。
- (2) 「農業」、「食料」、「環境」分野における「国際協力」、「技術」、「ビジネス」、「マーケティング」、「文化」、「教育」、「政策」などに関心を持ち、地域社会や国際社会で活躍する意欲を有している。
- (3) 実験・実習・演習等に通じた学びに強い関心があり、多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している。
- (4) ある事象に対して多面的かつ論理的に考察して、自分の考えをまとめ、適切に他者に伝えることができる。